

# 津大豆ニュース ～平成30年産第1報～

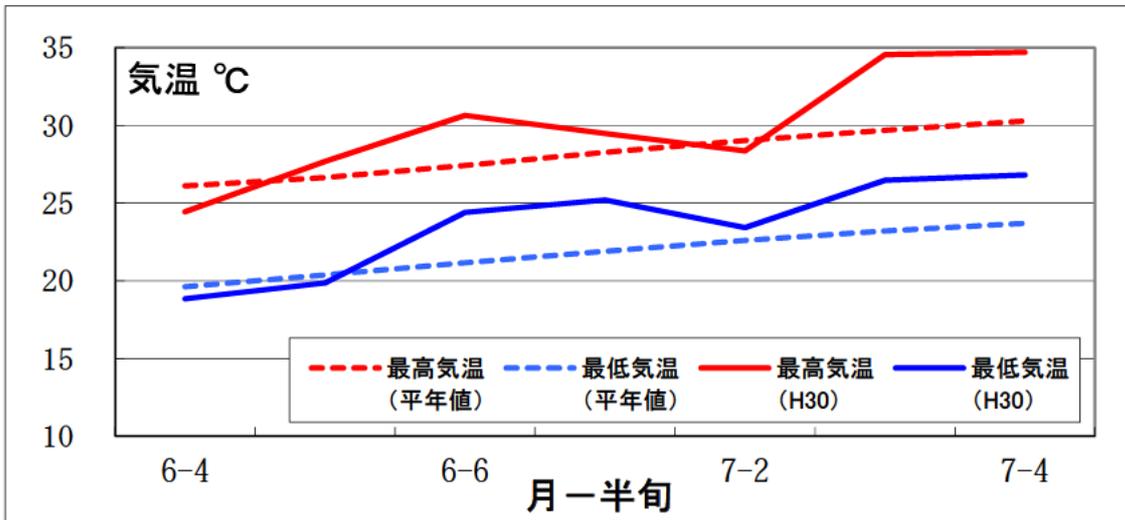
平成30年7月19日

津地域農業改良普及センター TEL: 059-223-5103

## 気象経過

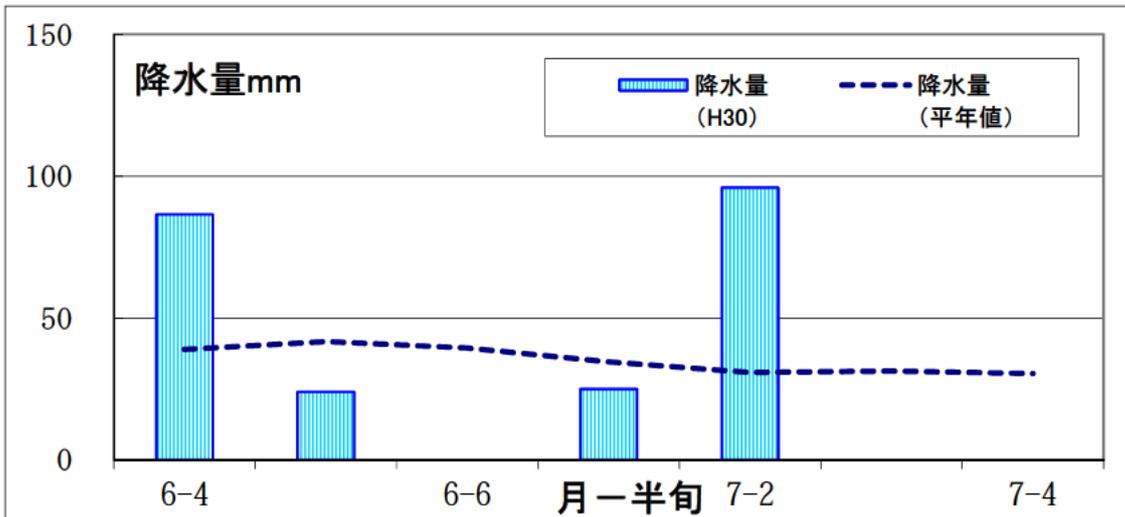
### 気温

6月下旬以降、7月第2半旬を除き、最高気温、最低気温とも平年より高く推移しています。



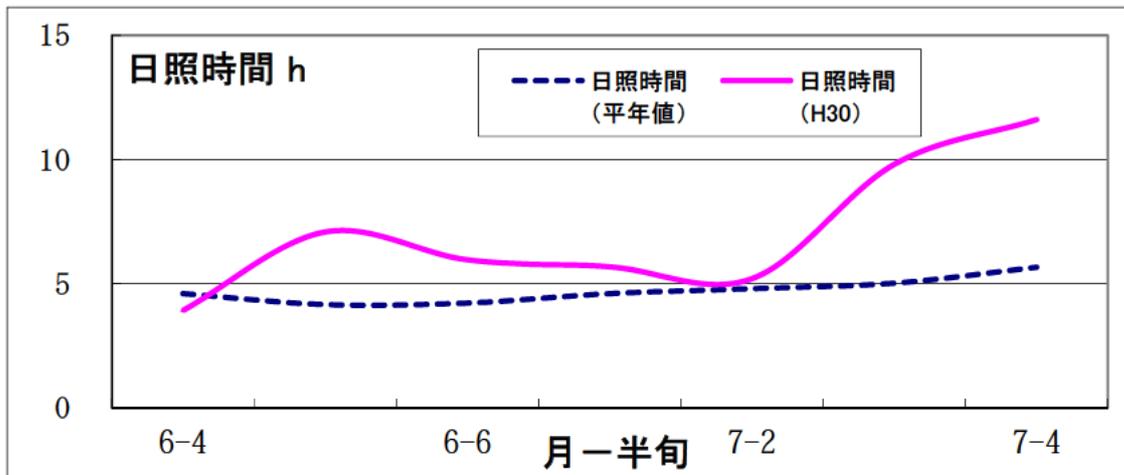
### 降水量

7月第2半旬にまとまった降雨がありましたが、全体的には晴れた日が多くなりました。7月9日に梅雨明けしたとみられます。



## 日照時間

7月第2半旬を除き、晴天の日が多かったことから、日照時間は平年を大きく上回っています。



## 生育状況

### 播種

管内の播種は6月末から始まり、7月第2半旬の大雨はあったものの、以降は晴天が続いており播種作業は順調に進んでいます。

### 生育状況

早期播種のところは7月第2半旬の大雨により湿害による発芽不良が心配されましたが出芽・苗立ちは概ね良好です。

### 雑草発生状況

一部ほ場で帰化アサガオ類等が発生しており、除草剤散布等の対応が必要となっています。

### 病害虫発生状況

現在のところ、目立った病害虫の発生はありません。今後、稲刈りの進行とともに、カメムシ類が大豆に移ることが予想されるため、注意が必要です。

## 今後の管理

### 雑草管理

帰化アサガオ類、ホオズキ類等の強害雑草の発生が増加しています。これらの雑草は生育旺盛で、大豆を覆い生育を著しく阻害します。また、収穫の際に雑草の汁で子実が汚れたり、収穫物に雑草の種子が混入して品質低下等の原因となります。特に、大豆が株間・畝間を覆うまでの早期の雑草防除が重要です。

<雑草防除対策> ～体系防除が効果的です～

- ① 土壌処理・・・エコトップ乳剤等
- ② 雑草茎葉散布・・・大豆バサグラン液剤(※)等
- ③ 中耕培土
- ④ 畝間処理（吊り下げノズル等を使用）・・・バスタ液剤等

※大豆バサグラン液剤は薬害を発生する場合がありますので、日中の高温の時間帯を避けて散布してください。

### 害虫対策

今後、吸汁性カメムシ類の発生が増加することが予想されます。

吸汁性カメムシ類は、成虫・幼虫ともに子実を直接吸汁加害し、奇形粒の発生や不稔等の原因となり減収につながります。被害は、適期に薬剤散布による防除を行うことで抑えられますので、9月中旬と10月上旬の2回防除を行いましょう。

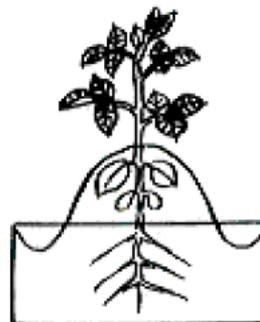
ハスモンヨトウは、本年のように高温が続く年に大発生します。ほ場を小まめに巡回して、白変葉の発生に注意し、若齢幼虫のうちの薬剤防除を行いましょう。

### 中耕培土

本葉2～3葉が展開したときに、逆転ロータリーを条間にかけることで雑草の初期発生がおさえられ、雑草防除、排水性の向上、根の活性化、倒伏防止に効果があります。開花までに2回以上行いましょう。



1回目：播種後15～20日  
(本葉2～3葉期)



2回目：は播種後22日～27日  
(本葉4～5葉期)

**畦間かん水**(開花期から子実肥大が終わるまで約 40 日間)

大豆は開花期以降要水量が大きい作物で、この時期に乾燥が続くと落花、落莢の発生が増加するとともに収穫時の青立ちを助長し、収量・品質が低下します。

干ばつ時(葉が 40～50%裏返った時)には、朝夕の涼しい時間帯に畝間かん水を行いましょう。

## 生育予測

**大豆生育予測** 【平成30年7月17日現在】

品種	播種日	開花期 (平年との差)
フクユタカ	7月1日	8月18日 (0.5日早い)
	7月15日	8月27日 (0.1日早い)

三重県農業研究所作成の生育予測システムVer9.2による予測です。  
気象庁アメダス津観測地点データ(直近10ヶ年の平均気温)を使用しています。